



金井会長

埼玉県摂食嚥下研究会第10回理事会および総会が、2018年7月15日(日)午前10時30分から彩の国すこやかプラザ2階研修室で行われた。

総会では、島田篤副会長の開会のもと、金井会長の挨拶の後、議長に水田宗達理事が、副議長には大久保喜恵子理事が選出され、2017年度の事業報告及び決算、平成2018年度の事業計画及び予算などの計6議案が審議され原案どおり可決され、埼玉県摂食嚥下研究会として新たにスタートすることになった。

第14回理事会・総会

第28回 講演会

講演会には、歯科医師をはじめ、医師、看護師、歯科衛生士、理学療法士、言語聴覚士、管理栄養士や介護施設職員等約120名が参加した。今回は、出浦恵子理事司会のもと進行した。



埼玉県摂食嚥下研究会だより

vol.38

発行日
平成30年10月25日
発行者
埼玉県摂食嚥下研究会
事務局
埼玉県浦和区針ヶ谷4-2-65
彩の国すこやかプラザ5F
埼玉県歯科医師会内
TEL 048-829-2323

講演 I

小児の摂食・嚥下障害の診断と

リハビリテーション

埼玉医科大学国際医療センター 運動呼吸器
リハビリテーション科教授
高橋 秀寿 先生



新生児からの嚥下の発達段階は、図1に示すように、経口摂取準備期から食具食べ機能獲得期まで、8段階がある。

(1) 経口摂取準備期(生後4ヶ月)は、原始反射(探索反射、吸啜反射、咬反射)を利用して嚥下する時期である。新生児では、乳首から吸啜する際に、陰圧形成を容易にするため、口蓋の傍歯槽堤(ほうしそうてい)

や、頬粘膜のピシヤの脂肪床、顎間空隙などの構造がある。

(2) 嚥下機能獲得期(生後5ヶ月)では、探索反射、吸啜反射などの原始反射の消失し、随意的な嚥下機能が開始される。口を閉じて舌の蠕動様運動で食塊を咽頭部付近まで移送する動きを獲得する。

(3) 捕食機能獲得期(離乳初期・生後5〜6ヶ月)では、捕食動作が見られるようになる。下口唇に食物やスプーンが触れると開口するスプーン上の食物を上唇で触覚認知して、口唇で口腔内に擦りとりするように舌の先端部に取り込み、閉口しながら前庭部に取り込むこの段階では、下唇の取り込む運動、舌

の前後運動が活発になる。

(4) 押しつぶし機能獲得期(離乳中期・7〜8ヶ月)では、舌で食物を口蓋皺壁(こうがいすうへき)に押しつけてつぶす運動によって、生まれてはじめて、食塊を形成する。口蓋皺壁は押しつけられた食物が滑らないような皺(しわ)があり、かたさなどの物性を関知しやすい構造になっている。この時期は、口角や舌の上下運動が観察される。

(5) すりつぶし機能獲得期(離乳後期・9〜11ヶ月)は、舌と口蓋でつぶせないものを臼歯相当部の歯茎ですりつぶす動きがみられ、硬い固形食に対処する働き(咀嚼)を引き出す時期である。この時期は、口角や舌の左右運動が観察される。

(2面に続く)

摂食嚥下機能の発達段階

図1.

1. 経口摂取準備期
2. 嚥下機能獲得期
3. 捕食機能獲得期
4. 押しつぶし機能獲得期
5. すりつぶし機能獲得期
6. 自食準備期
7. 手づかみ食べ獲得期
8. 食具食べ機能獲得期

向井美恵：摂食機能療法—診断と治療法— 胸書16：145-155、199.

離乳食の進め方と支援 表1.

	離乳の開始 5, 6ヶ月	7, 8ヶ月	9~11ヶ月	離乳の完了 12~18ヶ月
嚥下補食	押しつぶし	すりつぶし	すりつぶし	自食、手づかみ食べ
支援ポイント	姿勢の後傾、 ・ポスタージョ ・スプーンを ・スプーンを のなめらかさ。	平坦スプーン ・直径ぐら が目安。 ・とろみをつける。	丸いスプーン ・下唇にスプ ンをつけて上唇 が閉じるのを待 つ。 ・小さく丸い の固さ	手づかみ食べを 十分にさせる。 ・汚すのを我慢する。 ・高背すくらの固 さ

弘中祥司「食べる機能の発達」
MB Med Reha No.1221-8, 2010.



VFG結果 表2.

食材	ミルク	ミルク
粘度	とろみ	ヨーグルト程度のとろみ
摂取方法	は乳瓶	スプーン
姿勢	座椅子60度	座椅子60度
補食	乳首はすくくええる。	はじめは閉鎖その後は開口する。
口腔内保持	ー	良好
送り込み	速い	速い
嚥下反射	なし	なし
咀嚼	良好：圧弱い	良好：圧弱い
むせこみ	検査中は喉頭が嚥下したか検査の最後に閉鎖。	なし
喉頭蓋台残留	検査中は喉頭が嚥下したか検査の最後にむせた。	なし
実状書残留	なし	なし
食道狭窄	なし	なし
コメント	とろみをつけたミルクでの乳瓶での摂取は良好。し検査を継続したがその後は、うまく送 り込まれると判断の危険性あり	検査を継続したがその後は、うまく送 り込んで、嚥下もうまくできた。
方策	ミルクは今まで通りの60°で継続。流れないように	スプーンでの摂取の練習とスプーン 杯の量を少しずつ増やして離乳食の順 進の調整。

(6) 自食準備期は、自らの手を
使って食物を口まで運び、その
食物を口唇や前歯で握り込むこ
とが出来ようになり、腕の動
きや手の動きが十分に発達し、
口の動きとの協調運動としてお
もちやを口に運んだり、食物に
手を伸ばしたり、自発的な行動
が多くなる。

(7) 手づかみ食べ機能獲得期
(生後18ヶ月)は、食物を手でつ
かんで口に運び、口唇・舌・顎
などの動きと連動させて行う。
最初のうちは自分の手で食物を
口に運んでも手と口の協調が上
手くできず、「口からむかえにい
く」、「こぼす」、「横を向いて取り
込む」などの動きが見られるこ
とがある。手づかみ食べが上手
になるに従って、顔が横向きに
ならず正面をむいたまま、で、
手指により口の中央部に食物を

運ぶことができるようになり、
手を動かさずに前歯の力だけで
噛み切ることができるようにな
る。

(8) 食具食べ機能獲得期(生後
36ヶ月)は、最初は、スプーン
やフォークなどの食具をどの様
に用いたら口に食物が入るのか
がわからないため、こぼしたり、
スプーンが裏返ってしまうこと
もある。上手に指先をコントロ
ールしてスプーンが使えるよう
になるのは3歳以降であり、中
には4〜5歳ごろに使えるよう
になる場合もある。

特に、離乳食については、乳
幼児の摂食嚥下発達に合った離
乳食の進め方が重要である。表
1に、嚥下動作の獲得機能と、
それに応じた支援のポイントと
食材を示す。

次に、摂食での姿勢について
は、特に体幹が不安定で座位パ
ランスの悪いお子様には、図2
に示すように、クッションチェ
アが有効である。45度くらい
のリラクゼーションで、頭部にタ
オルを入れて頸部を屈曲位とし
て、両足底や両脇もタオルなど
で支えることで、座位は安定す
る。これによって、食事に集中
することができる。

嚥下造影検査(VF)も、こ
のクッションチェアを用いて、
母親に参加してもらうことで、
乳幼児は、泣かずに検査するこ
とができる。VFの検査結果と
コメント、方策についての一例
を表2に示す。

最後に、リハビリテーション



講演 II

**摂食・嚥下のための
座位姿勢とシーティング**

医療法人敬愛会リハビリテーション天草病院 理学療法士
阿部 高家先生

食事に望ましい姿勢としては、
口腔機能が高い場合、視線を食
事に向けられるように顔がやや
下方を向き、口角と耳を結んだ
線が下向きとなる、いわゆる
「軽いうなずき」姿勢が良いと言
われる(図1)。

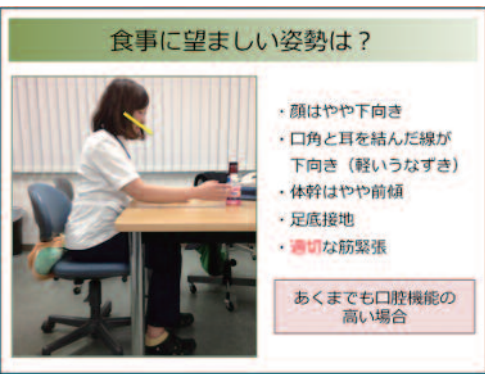
であるが、主な問題点と解決法
について以下に述べる

① 乳幼児期に口腔過敏がある場
合には、口腔内に優しく触れる
ことが原則で、口腔内マツサー
ジを必ず臼歯部から始め前歯に
かけて行う。また、シリコン製
のスプーンは、暖かく軟らかい
ので、受け入れられやすい。

② 学童期には、舌突出、緊張性
咬反射、過開口、丸飲み込み等
が問題になることが多い。この
場合の対策として、舌突出↓間
接法や口唇閉鎖練習、緊張性咬
反射↓歯肉マツサージ、過開口
↓下顎介助、丸飲み↓食形態の
検討と咀嚼訓練、などが有効で
ある。

③ ダウン症のお子さんは、顎の
大きさの割に舌が相対的に大き
い、口呼吸しながら食べる。吸
啜の口の動きが残存して舌を出
して食べる、口唇を閉じずに咀
嚼しないで丸呑みする、などの
問題点が指摘されている。これ
に対しては、離乳食の開始を遅
らせる必要はないこと、硬いも
のが噛める時期は遅れるのでゆ
っくり進めること、ストローの
使用はコップ飲みが確実にでき
てから開始する、などが治療の
原則である。

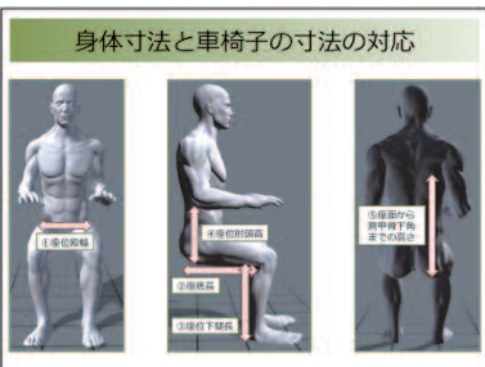
④ デンタルシグマは、口腔過敏
の乳幼児の口腔ケアに有効であ
り、カットアウトコップは、顎
を引いたまま、コップで水が飲
めるので、共に非常に有効であ
る。



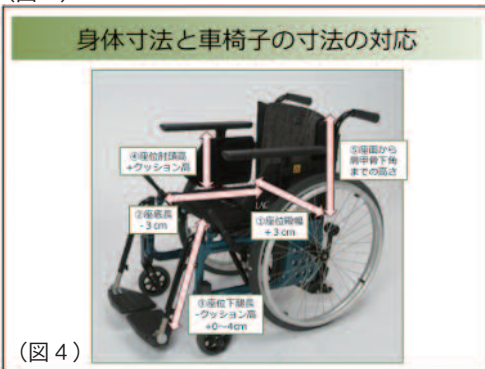
(図1)

Hoffer座位能力分類		対応
1	30秒	標準型車椅子+椅子 調整モジュラー+クッション
2	30秒	モジュラー車椅子+減圧クッション+ (座位補助具)
3		ティルトクライニング車椅子+前後予防クッション 前後傾下のパフォーマンス向上には、座位能力に関わらず、モジュラー型やティルトクッションを備える

(図2)



(図3)



(図4)

また、上半身も食事に向かっているように前傾できることが望ましいが、そのためには、足の裏や太もも(大腿後面)が床面や椅子の座面に全体的に接地し、上半身の前方への動きを保証できる状況を作る必要がある。つまり、対象者の膝下の長さ(下腿長)と、椅子や車椅子の座面の高さが適合している必要がある。また、背もたれ(バックサポート)の角度や形状、または硬さが対象者の脊柱のカーブに沿い、適切に支持できている必要もあり、適合していないと上半身は潰れる(屈曲する)か、背もたれに押し付けられるか、いずれにしても結果的に頭頸部のアライメントは「軽いうなずき」姿勢から崩れてしまい、食事に向かうことも楽に飲み込むことも難しくなる傾向に陥る。

健康者であればある程度は椅子と体のサイズや形状とのギャップを埋めることが可能であるが、虚弱高齢者や体に障害のある方では適応することが難しくなりやすく、最大能力を発揮できなくなってしまうばかりか、二次障害を引き起こすケースもある。摂食・嚥下に直接的に関係する二次障害とは、食事の取りこぼしや・むせ込み・誤嚥または誤嚥性肺炎・食事時間の延長などである。食事をする際は椅子を使用することになるため、椅子や車椅子を対象者に与える立場にある専門職は、その椅子や車椅子と、対象者とのサイズや機能がしっかりと適合し、少しでも対象者にとっての食事姿勢・動作パフォーマンスが良好なものとなっているかどうかの

確認が必要となる。初めて対象者に車椅子を提供する場合は、対象者の座位能力を簡単に評価して車種を選定する方法がある。これは、Hoffer座位能力分類(USSC版)といい、しっかりと台の上で端座位をとり、上肢での支持がなくても30秒座位を保持できればレベル1。上肢の支持があれば30秒座位を保持できるレベルをレベル2。上肢の支持があっても30秒以内に倒れてしまうレベルを3とする簡便な評価手法であり、職種に関係なく評価できる(図2)。

最後に、摂食・嚥下のシーティングにおいては、その効果やリスクが即時的に表れやすい。だからこそ、なんとなく椅子に対象者を座らせるのではなく、対象者を評価した上で、それに合った椅子を提供する、という考え方が必要となる。

埼玉県摂食・嚥下研究会会員数 313名・32団体 (2018.10.1現在) ホームページ <http://www.ssek.net/>

唾液のチカラで健康と笑顔を
お口をやさしくケア ペプチサル・シリーズ

Pepti-sal (ペプチサル)とは「Peptide(ペプチド)」+「Saliva(唾液)」の造語。
唾液のチカラに着目して開発された低刺激性のオーラルケア製品です。
デリケートなお口をやさしくケアし、お口の環境を健康に保ちます。
要介護の方の口腔ケアにもおすすめです。

2種類のペプチド配合	ラクトフェリン配合	キシリトール配合	保湿成分配合	pH中性域	発泡洗浄剤無配合	アルコール無配合	パラベン無配合
------------	-----------	----------	--------	-------	----------	----------	---------

*1 ナイシン・ポリリン (清掃助剤)
*2 (清掃助剤)
*3 (甘味剤)

T&K ティーアンドケー株式会社 TEL: 03-5640-0233 FAX: 03-5640-0232 0120-555-350 www.comfort-tk.co.jp

- (1) 埼玉県摂食・嚥下研究会だよりを発行(年3回: 34号・35号・36号)
- (2) ホームページの作成・更新
(<http://www.ssek.net/>)
- (3) 編集委員会
日時:平成29年9月21日(木)
場所:彩の国すこやかプラザ
日時:平成29年12月7日(木)
場所:彩の国すこやかプラザ

- 日時:平成30年7月15日(日)13時~16時20分
場所:彩の国すこやかプラザ
- 講演Ⅰ
演題:小児の摂食・嚥下障害の診断とリハビリテーション
講師:埼玉医科大学国際医療センター 運動呼吸器リハビリテーション科教授 高橋 秀寿氏
- 講演Ⅱ
演題:摂食・嚥下のための座位姿勢とシーティング
講師:医療法人敬愛会 リハビリテーション天草病院 リハビリテーション部地域リハ担当副部長 阿部 高家氏

第3号議案 平成29年度収支決算の承認に関する件
下記決算書が可決承認。

第4号議案 埼玉県摂食・嚥下研究会会則の一部改正に関する件

改正前	改正前
摂食・嚥下研究会会則 (名称) 第1条 本会は埼玉県摂食・嚥下研究会(以下「研究会」と言う)と称する。	摂食嚥下研究会会則 (名称) 第1条 本会は埼玉県摂食嚥下研究会(以下「研究会」と言う)と称する。

(2) 第30回講演会
日時:平成30年11月25日(日)13時~17時
場所:彩の国すこやかプラザ
(演題・講師選定中)

(3) 第31回講演会
日時:平成30年3月(開催日調整中)13時~17時
会場:彩の国すこやかプラザ
(演題・講師選定中)

第5号議案 平成30年度事業計画の承認に関する件

平成30年度 事業計画

本格的な高齢社会を迎え、高齢者が最期まで元気で、健康な生活を送ることが切実な課題となっています。「食べる」ことに障害を持つ高齢者や障害児(者)が大勢いるにもかかわらず、その取組みが遅れています。埼玉県摂食嚥下研究会は、摂食嚥下障害の諸問題への対応や啓発指導、リハビリテーションなど目的を達成するために以下のとおり事業を行います。

1 講演会・症例検討会の開催

(1) 第29回講演会

2 摂食嚥下研究会だより発行、ホームページの作成・更新
埼玉県摂食嚥下研究会だよりを発行(年3回)
ホームページの更新(<http://www.ssek.net/>)

3 その他

(1) 必要に応じて作業委員会、摂食嚥下だより編集委員会を開催する。

第6号議案 平成30年度収支予算に関する件
下記予算書が可決承認。

平成29年度 摂食・嚥下研究会収支決算書

(単位:円)

(収入の部)

(単位:円)

項	本年度予算額	本年度決算額	差異
入会金収入	30,000	20,000	10,000
会費収入	1,640,000	1,240,000	400,000
事業収入	840,000	440,000	400,000
雑収入	2,000	285,383	△283,383
事業活動収入合計	2,512,000	1,985,383	526,617
繰越金		1,372,879	
収入合計	2,512,000	3,358,262	△846,262

(支出の部)

項	本年度予算額	本年度決算額	差異
事業費	2,412,000	1,894,312	517,688
1.理事会・総会費	(787,000)	(396,373)	(390,627)
2.講演会費	(1,230,000)	(632,060)	(597,940)
3.広報費	(395,000)	(865,879)	(△470,879)
予備費	100,000	0	100,000
事業活動支出合計	2,512,000	1,894,312	617,688
次期繰越収支差額		1,463,950	

平成30年度 摂食嚥下研究会収支予算書

(単位:円)

項	本年度予算額	前年度予算額	差異
【事業活動収入】			
入会金収入	30,000	30,000	0
会費収入	1,543,000	1,640,000	△97,000
事業収入	600,000	840,000	△240,000
雑収入	2,000	2,000	0
事業活動収入合計	2,175,000	2,512,000	△337,000
【事業活動支出】			
事業費	2,075,000	2,412,000	△337,000
1.理事会・総会費 作業委員会費	(605,000)	(787,000)	(△182,000)
2.講演会費	(1,080,000)	(1,230,000)	(△150,000)
3.広報費	(390,000)	(395,000)	(△5,000)
予備費	100,000	100,000	0
事業活動支出合計	2,175,000	2,512,000	△337,000
事業活動収支差額	0	0	0
前期繰越金	1,463,950	1,372,879	91,071
次期繰越金	1,463,950	1,372,879	91,071

埼玉県摂食嚥下研究会 第14回 総会報告

第1号議案 役員を選任に関する件

埼玉県摂食嚥下研究会役員名簿

(平成29年4月1日～平成31年3月31日)

役職	氏名	所属
会長	金井 忠男	埼玉県医師会会長
副会長	島田 篤	埼玉県歯科医師会会長
副会長	鯉渕 肇	埼玉県薬剤師会会長
副会長	萱場 一則	埼玉県立大学長
専務理事	藤野 悦男	埼玉県歯科医師会地域保健部副部長
理事 (総務・会計)	三木 昭代	埼玉県歯科医師会理事地域保健部長
理事 (広報)	出浦 恵子	埼玉県歯科医師会地域保健部副部長
理事	池田里江子	埼玉県薬剤師会常務理事
理事	内田 淳	埼玉県社会福祉事業団嵐山郷医療部医幹
理事	大岡 貴史	明海大学歯学部機能保存回復学講座摂食嚥下リハビリテーション学分野准教授
理事	大久保喜恵子	埼玉県歯科衛生士会長
理事	大橋 幸子	埼玉県作業療法士会理事・事務局長
理事	大前由紀雄	埼玉県耳鼻咽喉科医会会員
理事	小川 郁男	坂戸鶴ヶ島医師会会長
理事	北原 俊彦	埼玉県歯科医師会地域保健部副部長
理事	小宮山和正	埼玉県歯科医師会地域保健部副部長
理事	清水 充子	埼玉県言語聴覚士協会会長
理事	膳亀 昭三	埼玉県薬剤師会副会長
理事	高橋 秀寿	埼玉医科大学国際医療センター運動呼吸器リハビリテーション科教授
理事	長谷川佳和	埼玉県介護支援専門員協会代表理事
理事	平野 孝則	埼玉県栄養士会長
理事	廣澤 信作	埼玉県医師会常任理事
理事	深井 稔博	埼玉県歯科医師会常務理事
理事	星野 恵子	埼玉県看護協会常務理事
理事	三塩 操	埼玉県訪問看護ステーション協会会長
理事	水田 宗達	埼玉県理学療法士会副会長
理事	三谷 雅人	大宮医師会理事
理事	安井 利一	明海大学学長
理事	柳澤 伸彰	埼玉県立大学健康開発学科口腔保健科学専攻准教授
理事	湯澤 俊	埼玉県医師会副会長
監事	岩上 榮吉	埼玉県歯科医師会専務理事
監事	丸木 雄一	埼玉県医師会常任理事

第2号議案 平成29年度事業報告の承認に関する件

平成29年度 事業報告

1. 会員数

正会員 309名

賛助会員 33団体(61口)

2. 理事会及び総会

平成29年7月16日(日) 彩の国すこやかプラザ

3. 講演会及び症例検討会

(1) 日時:平成29年7月16日(日) 13時～16時20分

場所:彩の国すこやかプラザ

◇第27回講演会

基調講演:多職種連携

講師:明海大学歯学部機能保存回復学講座 摂食嚥下

リハビリテーション分野准教授 大岡 貴史 氏

シンポジウム

『埼玉県摂食嚥下研究会シンポジウム

～埼玉県の10年後を考える～』

(2) 日時:平成29年11月12日(日) 13時～16時

場所:彩の国すこやかプラザ

◇第11回症例検討会

事例報告:埼玉県歯科衛生士会長 大久保 喜恵子氏

演題名:嚥下食の種類と目的

コーディネーター:埼玉県栄養士会長 平野 孝則氏

講義:摂食嚥下分類と市販介護食品について

講師:ヘルシーフード 担当者

調理デモ「ゲル化剤を活用した介護食」

講師:ニュートリー 担当者(展示食品の説明)

各業者ブースでの試食・物性等の体験・グループワーク

(3) 日時:平成30年2月18日(日) 14時～17時

場所:彩の国すこやかプラザ

◇第28回講演会

講演1:地域における障害児・者への摂食支援

講師:①埼玉県社会福祉事業団 嵐山郷医療部歯科担当

医幹 内田 淳 氏

②明海大学歯学部機能保存回復学講座 摂食嚥下

リハビリテーション分野准教授

大岡 貴史 氏

講演2:発達障害のお子さんの摂食の問題について

講師:埼玉県言語聴覚士会会長 田尻 恵美子 氏

4 その他

(1) 監査 日時:平成29年7月12日(水)

場所:埼玉精神神経センター他

(2) 作業委員会 日時:平成29年9月21日(木)

場所:彩の国すこやかプラザ

日時:平成29年12月7日(木)

5. 摂食嚥下研究会だより、ホームページの作成・更新

埼玉県摂食嚥下研究会

第30回 講演会

日時：平成30年 **11月25日**（日） 13:00～16:20

場所：彩の国すこやかプラザ 2階セミナーホール

講演 I

演題：「**嚥下動態に影響する姿勢** 一口腔相から食道相まで、
体位効果を利用した嚥下リハビリテーション」

講師：藤田医科大学医学部 ロボット技術活用地域リハビリ
医学寄附講座 教授

太田 喜久夫 先生

講演 II

演題：「**地域歯科医師会との口腔ケアラウンドに関する報告**」

講師：越谷市立病院 摂食・嚥下障害認定看護認定看護師

奥田 朋子 先生

■定員：200名

※参加者多数の場合はご連絡いたします。

※改めて参加証はお送りいたしません。

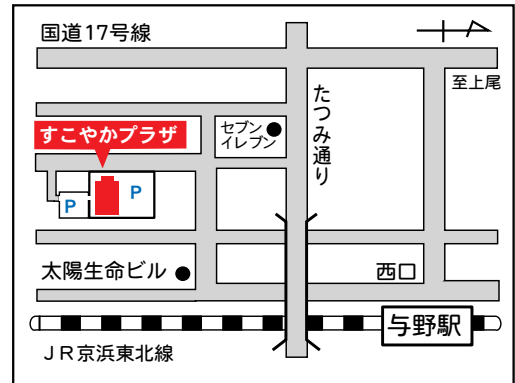
■参加費：会 員 / 無 料

非会員 / 2,000円

■申込締切日：**11月16日（金）**

主 催：埼玉県摂食嚥下研究会

問合せ：埼玉県歯科医師会事務局 TEL 048-829-2323



参加申込書

埼玉県摂食嚥下研究会（会員・非会員）

※どちらかに○を付けてください

フリガナ		職 種	
氏 名			
住 所 (勤務先)	〒 -	電 話	
		F A X	

申込書 FAX先 **048-829-2376**